



# からしだね

2013年  
3月号(481号)

キリストの受難  
カトリック池田教会

共同宣教司牧: 畠 基幸神父・染野治雄神父  
協力司祭: デニス・マックゴワン神父  
住所 : 〒563-0041 池田市満寿美町9-26  
TEL : 072-751-2400 FAX : 072-753-4624  
URL(ホームページ) :  
[http://www.wombat.zaq.ne.jp/catholic\\_ikeda/](http://www.wombat.zaq.ne.jp/catholic_ikeda/)



巻頭言 .....	2	表紙写真説明 .....	3
典礼委員会から .....	4	クレド・ドミネを歌いましょう	4
四旬節黙想会 .....	5	社会活動委員会から .....	6
からしだね俳壇 .....	7	宝塚黙想の家から .....	8
ガラスケースの言葉 .....	8		

表紙写真 : エジプト 聖ジョージ教会 撮影 : 神崎 茂

※ 聖堂入り口で配布しているものからの抜粋版です  
完全版をご希望の方は、お近くの広報委員までお問い合わせください

巻頭言

## 神を信じて生きる人の希望 (1月27日の説教より)

染野治雄神父

第一：ネヘミヤ8. 2-4a, 5-6, 8-10

第二：I コリント12. 12-30

福音：ルカ1. 1-4, 4. 14-21

今日の第一朗読はネヘミヤ書が読まれました。これはユダヤ人がバビロン捕囚から解放された後の時代を背景とした物語です。

紀元前6世紀(587)、ユダ王国はバビロニア帝国によって滅ぼされ、エルサレムは町も神殿も破壊されて、主だった人々はバビロンへ強制的につれて行かれてしまいます。バビロン捕囚の出来事です。その後50年(536/539)、今度はバビロニアがペルシャによって滅ぼされると、バビロンにつれて行かれたユダヤ人たちは解放されて故郷に帰ることができるようになりました。しかし外国の町とはいえ50年も住み続けると、荒れ果てた故郷へ戻って新しく国造りを始めようというのは、多くの人には重荷と感じられたのでしょうか。エルサレムの復興はなかなかかどりませんでした。それでも、神殿が再建され(520年頃)、その後ネヘミヤによって破れた城壁が修復されます(445年)。ここまで約100年かかっています。そして町の形が出来上がると、次は祭司エズラによって宗教的な復興がなされます。今日読んだところは、祭司エズラが人々に律法を布告してエルサレムがユダヤ教の聖地として回復したことを祝う場面です(BC398)。エルサレムの復興が完成するまでに、実に140年かかっていることとなります。

エルサレムの復興、それは町としての形が整っただけではありません。人々の心をつなぐに結び付く、その核となる律法を中心とした新しい宗教秩序が完成したことを意味します。律法を中心とした新しい宗教的秩序に基づいて新しい国を造って行こう、と決心して表明する儀式が今読まれたところです。それは、必要なものに事欠く人々のいない国、誰もが安心して神を礼拝して賛美できる神の愛に基づいた新しい国を建設してゆこうという決心です。その出発が歌い上げられるのです。

ということで、希望に満ちた新しい国造りがはじまったのですが、それでも、あくまでも外国(ペルシャ)の支配下にあることは変わりありません。その後は、さらにギリシャの支配下に入り、最後はローマ帝国の支配下に入ることになります。ローマの支配下では、ある程度の政治的自治と宗教的自由は認められていたのですが、ユダヤ教は律法を形だけ守ることが目的となってしまう、貧しい人々や病気の人々は罪人とみなされ、一部の特権階級を除いて多くの弱い立場の人々はローマの圧迫のもとで苦しみ、社会の歪みは極限にまで達していたのです。そのようなときに、突然現れたのが、イエスでした。イエスの登場は、ほんとうに突然といってよいものだったと思います。その力ある言葉とわざは苦しむ多くの人々にとって救いの光、希望の光として映ったにちがいません。

今日の福音では、イエスは神の愛による新しい秩序が始まったことを歌い上げます。

「捕らわれている人に開放を、・・・」。このようにして人間性が破壊されてしまった世界に、愛の秩序による新しい神の支配が始まったことが告げられます。罪の縄目から解放されて、本当の人間性の復興が始まったこと。人が人として、ほんとうに自分らしく生きることのできる世界の始まりが宣言されるのです。エズラが律法を中心とした新しい社会の建設を宣言したように、イエスは新しい愛の掟に基づいた世界の回復を告げたのでした。

しかし結論からいえば、それが実現するためにはイエスの十字架が必要にならざるを得ませんでした。このイエスの十字架によって、人間は罪と死の縄目から解放されました。ところが、それから2000年がたったのに、人間性が重んじられる社会の復興は遅々として進んでいないように見えます。ユダヤ人がバビロンから解放されて、ユダヤの国が復興するまでに140年かかっています。自由の身となったとはいえ、住み慣れたところを離れて、あえて荒野へ出て新しい神の秩序に基づく世界を立て直すというのは容易なことではあ

りません。歩みが遅くなることもありますし、逆戻りすることもあるでしょう。しかし新しい世界はすでに始まっています。わたしたちは愛の原理に基づいた世界を立て直さなければならないのです。たとえ時間がかかっても、苦しみや絶望にさいなまれることがあったとしても、それが神からわたしたちに与えられた使命です。神の国への復興は遅々として進んでないように見えます。しかしネヘミヤやエズラの時代の人たちと同じように、すべての人が神のみ前につどい新しい神の秩序の再生を祝う日が来るのですし、わたしたちはそれを信じています。聖書の言葉を実現させるのは、わたしたちの役目です。わたしたち自身がイエスの告知を携えて世に出てゆくのです。これがわたしたちの信仰です。神を信じて生きる人の希望です。

### 【表紙写真説明】

#### エジプト 聖ジョージ教会

今年1月に行ったエジプトの聖ジョージ教会は、聖家族が逃避した時に隠れた地下礼拝堂の上に建てられたもので、イスラム圏にある数少ない教会だそうです。クリスマスの飾り(写真右)もありました。壁画(写真下)も印象的でした。

(神崎 茂)





## 典礼委員会から

### 1. 復活節の日程と時間

- 3月24日(日) 枝の主日 聖週間に入ります
- 3月28日(木) 聖木曜日(主の晩餐) ミサ 19:30～ 洗足式があります
- 3月29日(金) 聖金曜日(主の受難) 十字架の道行 10:00～ 受難の祭儀 19:30～
- 3月30日(土) 聖土曜日 復活徹夜祭ミサ 19:30～ 入信の秘跡(洗礼・堅信)
- 3月31日(日) 復活の主日 初聖体 ミサ9:00～

### 2. 新侍者の募集

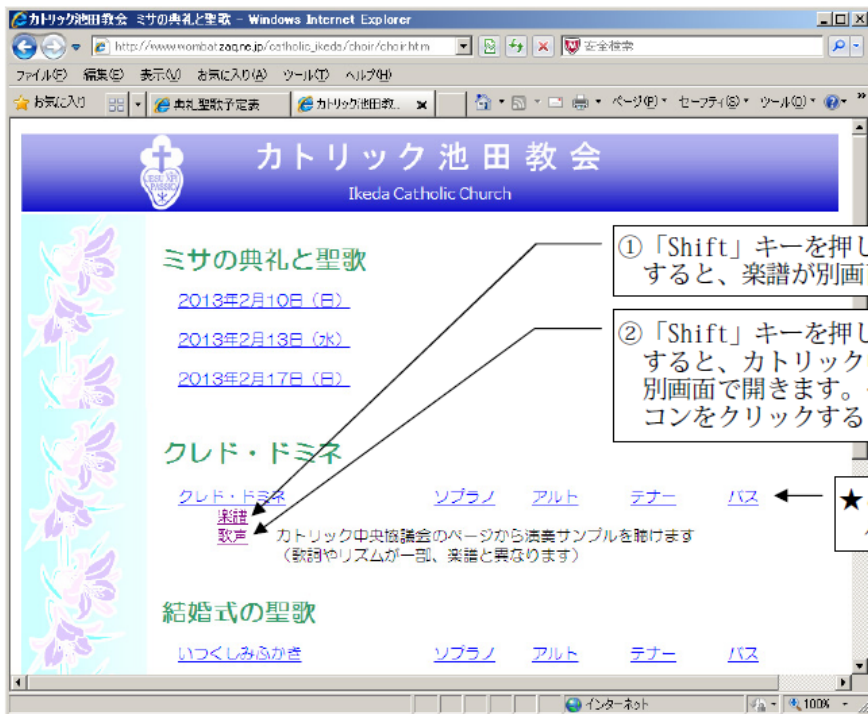
侍者会の新会員を募集します。  
 対象は、初聖体を受けた小学3年生以上で希望される方。  
 申し込みは、典礼委員会 侍者担当 小杉・四倉まで。  
 申し込み期限は、4月14日(日)まで。  
 新侍者は、4月27日(土)のお泊り会にて、心構えと、基本的なミサの進行を教わります。そして、4月28日(日)の主日のミサで、教会から新たに侍者として任命されます。  
 また4月28日(日)ミサ後、侍者と保護者が集って、日頃の侍者慰労を兼ねた新侍者歓迎会を行います。

♪♪♪♪♪♪♪ クレド・ドミネを歌いましょう ♪♪♪♪♪♪♪

池田教会のホームページに、クレド・ドミネを練習できるページがあります。

[http://www.wombat.zaq.ne.jp/catholic\\_ikeda/choir/choir.htm](http://www.wombat.zaq.ne.jp/catholic_ikeda/choir/choir.htm)

このURLを  
手で入力して  
ください



① 「Shift」キーを押しながらここをクリックすると、楽譜が別画面で開きます。

② 「Shift」キーを押しながらここをクリックすると、カトリック中央協議会のページが別画面で開きます。そこでスピーカのアイコンをクリックすると歌声を聴けます。

★ここをクリックして、アルトやバスで歌ってみましょう。

## 四旬節黙想会（2月17日）



### 四旬節黙想会報告

杉山直人

2月17日は四旬節に入った最初の日曜日でした。この日、池田教会は聖パウロ修道会から澤田豊成神父さまにおいでいただきました。御ミサの説教と黙想会の中心的テーマは「荒野」と「悪魔の誘惑」です。説教と黙想会の講話とは別々ではなくて、ひとつになっていました。

御ミサで語られる御言葉は御存知の通り、ひとつのテーマに基づいて旧約聖書と新約聖書から、それぞれ関連した部分が引用されます。この日は「荒野」の意味を考えなおす、というところからスタートしました。荒野とは「否定」から「肯定」への転換である、というのが御講話のメッセージでした。神に従わなかったイスラエルの民は、怒りに触れて荒野で死に絶えます。厳しい試練でした。この試練を経たのち、世代が交代して彼らの子孫たちは約束の地で豊かな暮らしを楽しむことができるようになります。ところが、恵まれた環境がわざわざいして、またも神を忘れるのです。神を忘れたイスラエルの民を旧約の預言者は糾弾しました。ですから「荒野」は人が神との対話を深めるのに欠かせない場なのです。

さて新約聖書に目を向けましょう。ガリラヤでの伝道を始めるまえに、イスラエルの民と同じように、イエスもまた御旨によって「荒野」に送られます。ここで悪魔がイエスを誘惑します。誘惑ですから魅力的なものばかりが、イエスのまえに並べられます。「石をパンに変える」ことも「世界のすべての国々の権力と繁栄」を手に入れることも、現世では素晴らしいことです。こうした生活をめざして、わたしたちは欲望と野心とを満足させるために、日々あくせくと働いているのかもしれない。いつのまにか「この世の価値観」にどっぷりと浸っているのかもしれないのです。しかし、パンをたらふく口にすることは飽食につながり、権力と繁栄を手に入れることは墮落を招きがちです。イスラエルの民とおなじく、「荒野」を神さまからの恵みの場とするために、「救いの場」とするためにこそ四旬節があります。イエスの救いは十字架による死という、まったく否定的なできごとから生まれました。そこには神の逆説が働きます。荒野という厳しい環境に置かれ、「恵みとは呼べないような出来事」のなかで、神の恵みを見いだすことができるよう、わたしたちは四旬節を歩みましょう——神父さまの御講話は、おおむねこのようなものでした。



(四旬節黙想会報告 続き)

神父さまの講話に耳傾けながら、わたしはわが国の発展と豊かさを思いました。戦後70年、世界から羨まれるような信じられないほどの成功を日本はおさめました。いまでも覚えています。半世紀の昔、ブリキのおもちゃのような「ミゼット」という三輪自動車を、呉服小学校前の工場からダイハツが送り出せるようになった頃、工場前を延びる未舗装の土埃が舞う道を、シボレーやクライスラーが重戦車のように疾駆していました。やがて、その日本車がアメリカ市場はおろか世界市場を席卷した・・・バブルの頃、われわれは有頂天でした。1人あたり国民所得はアメリカを抜いて世界一。太平洋戦争の勝者は日本だったのではないか、そんな錯覚を覚えたものです。悪魔の誘惑をそのまま受け入れたイエスも、かくあるやのようでした。だが、おごる平家は久しからず。バブルの果てにやってきた福島の悲劇は神の試練なのかもしれません。今まさに日本国全体が「荒野」を彷徨っているのかもしれません。経済も色あせ、「パン」を口にすることのできない多くの人びとが生まれてしまいました。神の国をめざす教会とわれわれは、どのような道を選択すべきなのか、四旬節は問うているようです。福島の荒野を神さまの恵みに転換することは、容易ではありませんが・・・

澤田神父様の黙想会には、過去最高の108名もの参加者がありました。

5月31日に開催予定の池田・日生中央教会 合同黙想会も、澤田神父様に黙想指導をお願いしています。お楽しみに！

(研修委員会)



### 社会活動委員会から

福島診療所等から手書きのお礼状が届いています。  
聖堂後方の掲示板にはっています。どうぞご覧下さい。







かうしたね 俳壇

松本善一

駅員の指差し確認風光る

電線のビニールの端春嵐

仲和子

病癒ゆ窓の向こいの猫柳

春浅き感謝ばかりの昨日今日

大西参子

茅柳の糸に重たき群雀

表札のまだなき新居下萌へる

馬場とよ

梅真白無償の愛といふがあり

胸中に小さき願ひや梅紅し

村嶋伸子

ろう梅の香れる角で待ち合せ

風花や猫も窓辺で小踊りし



亀甲泰子

男坂登り切つたる梅真白

亀の子の少し首振り梅日和

原田白寛子

冬ぼりを抱き息をつめてをり

狐高なるマリアの像へ梅香る

本林山真美子

双眼鏡入れ早春の旅靴

木の芽風村人の守る廃校舎

赤井ひろ子

梅の香や思わず息を深く吸ひ

初場所や新十両の勝たのり

山石尾純枝

寒三日月鞍馬の闇を裂きしと

梅林にいつか見し息継の胸の



## 宝塚黙想の家から 黙想会のお知らせ

私たち、キリスト者に与えられている宝は、神のみことばである聖書です。  
黙想の家では、毎月みことばを深く味わう集いを行っています。  
宝は大事にしたいですね。

### ■ 日帰り黙想会

3月21日(木) 10:00～15:30 指導：山内十束神父 費用：3,300円  
3月22日(金) 10:00～15:30 指導：山内十束神父 費用：3,300円

### ■ 四旬節黙想会

3月 2日(土)17:00～ 3日(日)15:30 指導：ウォード神父 費用：8,800円  
3月23日(土)17:00～24日(日)15:30 指導：山内十束神父 費用：8,800円

### ■ 聖週間黙想会

3月28日(木)17:00～31日(日)朝食後 指導：ウォード神父・山内十束神父  
費用：30,000円

### ■ バッハの受難曲

3月 9日(土)14:00～10日(日)15:30 指導：国井健宏神父 費用：8,800円

申し込みは、黙想の家まで TEL. 0797-84-3111

## 3月ガラスケースの言葉

天地は過ぎ去る。  
然し私のことばは過ぎさることはない。

マタイ24：35



## 編集後記

分厚い聖書のほんの一部を読んでも大きさが様々な舞台で幾人かの人物が一つの物語を演じている情景が浮かんできます。旧約のモーゼ五書のとてつもなく広い舞台では長い時間で大きな物語が進行し、預言者の超人間的な言動の物語は人を一連の行動に駆り立てます。一方、新約の舞台は互いの心の内が見える部屋や家の大きさと、経過する時間は訪れる転機の一瞬であったり、数日間が過ぎる程度ですが、革命児のようなイエスによって精神や心が深部から動かされます。

約1年前に、あるミサの説教で紹介された「我と汝 (Ich und Du)」(岩波書店刊)の著者であるマルチン・ブーバーの未翻訳の著書、「Two Types of Faith (信仰の二形態)」(シラキュウス大学出版会刊)を読んでいて旧約と新約を比較した次のような文に出会い、誤訳を懼れずに拙訳を括弧内に示します。旧約の「The man who trusts Him lives in His face. (主を信じる人は主の面前で生きる)」に対して、新約の「One can “believe that God is” and live at His back. (人は主がおられる事を信じて主に従って生きる)」が対比されていました。(インマヌエル)